

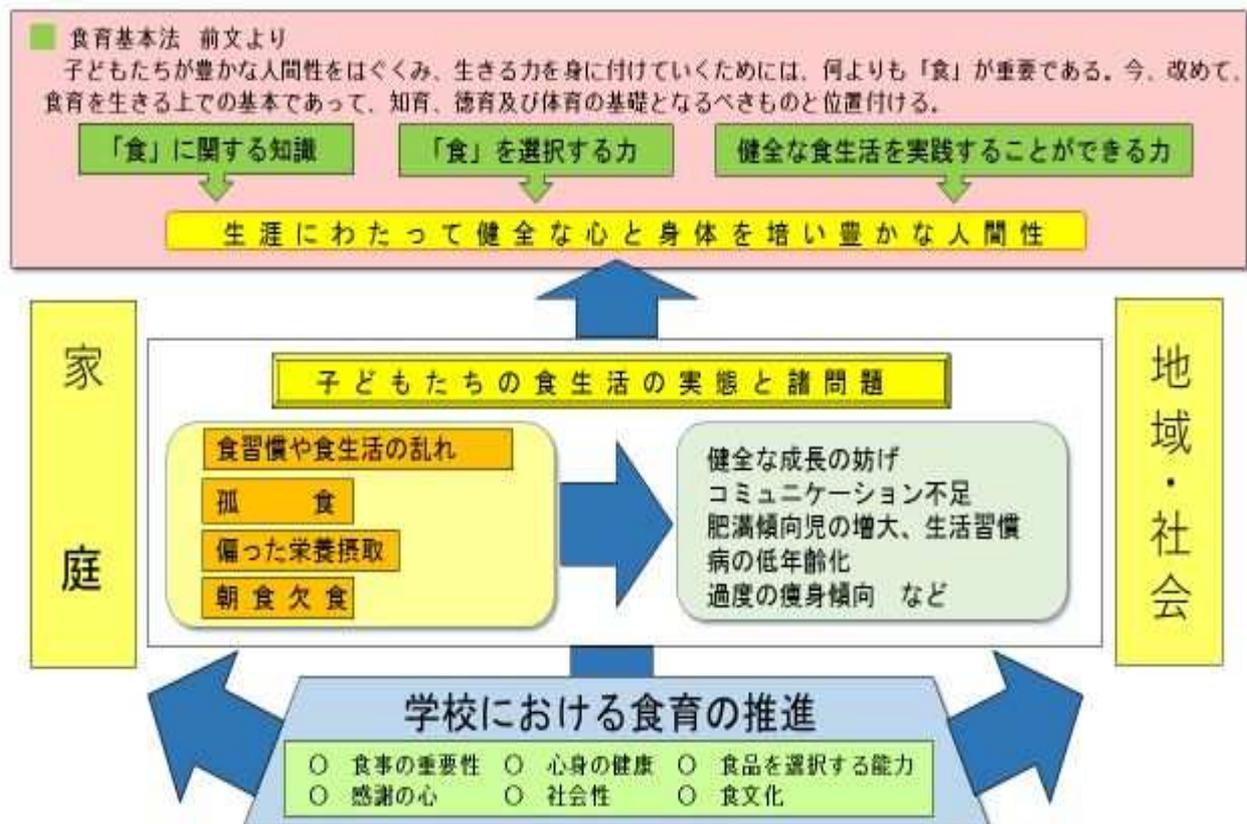
# 1 愛知県における学校食育推進の基本的な考え方

## (1) 学校における食育の必要性

食は人間が生きていく上での基本的な営みの一つであり、健康な生活を送るためには健全な食生活は欠かせないものです。しかしながら、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、偏った栄養摂取や不規則な食事などに起因した肥満や生活習慣病の増加が見られます。また、過度の痩身などの問題も指摘されています。食に関する問題は、本来家庭が中心になって担うものですが、食生活の多様化が進む中、家庭において十分な知識に基づいて指導を行うことが困難になりつつあるばかりか、保護者自身が健全な食生活を実践できていない場合もあります。そうした状況を踏まえると、子どもたちの食生活については、学校、家庭、地域が連携して、望ましい食習慣の形成に努める必要があります。

子どもの頃に身に付いた食習慣を大人になって改めることは、困難なことです。特に、成長期にある子どもたちにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであり、同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものです。

図1 学校における食育の必要性



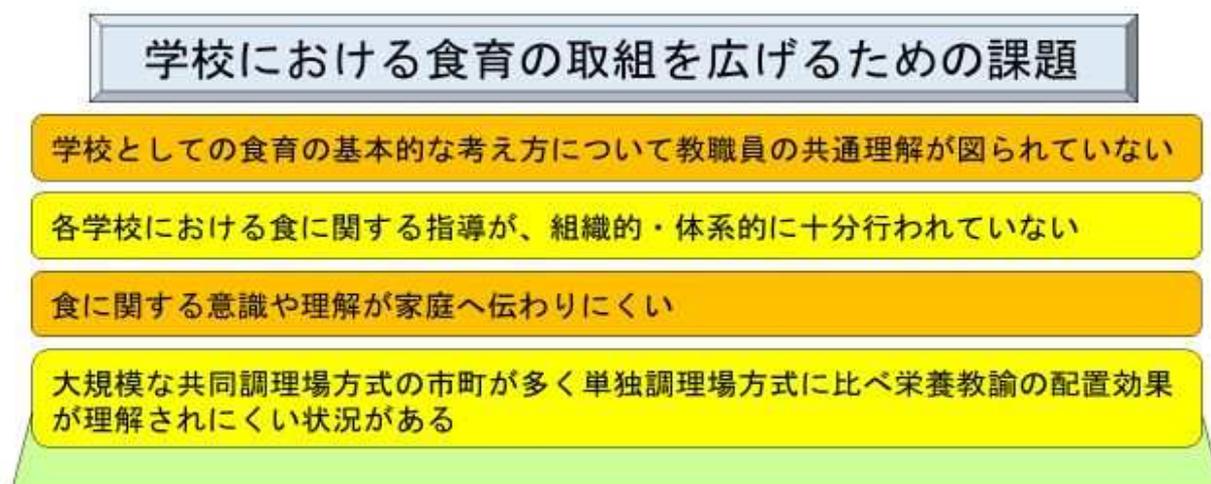
## (2) 学校における食育の現状と課題

食育基本法が施行され、食育の重要性が明記されたことから、各学校では、地域の実態に合わせて特色を生かした食育の取組や、栄養教諭の専門性を生かした食育の実践が行われてきました。例えば、「地域の方の協力を得ながら、子どもたちが栽培活動に取り組むことにより、育てた野菜を収穫する喜びを味わうことで、食べ物を大切にする気持ちが育ってきた」また、「栄養教諭が、収穫した食材を生かした学校給食を提供することで、野菜がおいしいと感じる子どもが増えてきた」「実物に触れる場面や食べ物を活用した実験を取り入れるなど食育の授業を工夫することで、子どもたちの食への興味関心を深めることができた」さらに、「子どもたちが食に関する学習で学んだことを家庭へ持ち帰ることで、家庭での食に関する関心が高まってきた」「学校の食育の取組を保護者も体験することで、保護者の食に関する意識が高まり、地域の人たちもこうした取組へ参加するまでに発展してきた」など、様々な実践が積み重ねられ、その成果も多く見えてきました。

しかしながら、こうした成果とともに学校における食育を広げるための問題点も見えてきました。積極的に食育の研究に取り組む学校がある一方で、栄養教諭や学校栄養職員が配置されていない学校もあり、栄養教諭等を活用する体制が整っていない状況が少なからずうかがえます。また、教科でない食育をどのように校内で進めていくとよいか、手だてが分かりにくいなど、戸惑いを感じている学校も少なくないようです。

学校における食育は、児童生徒が食に関する知識や能力等を発達段階に応じて総合的に身に付けることができるよう、校長のリーダーシップの下、さまざまな教科等の指導を関連させつつ、全教職員で組織的に取り組むことが必要です。学校における食育の推進について積極的な地域や学校が増えつつありますが、県全体で見るとまだまだ部分的であり、すべての学校に広げていくことが大きな課題となっています。

図2 学校における食育の取組を広げるための課題



### (3) 第4次愛知県食育推進計画

本県では、平成 18 年に「愛知県食育推進会議」を設置し、第1次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン」を作成し、平成 22 年度を目標に食育を県民運動として推進していきました。

第4次計画である「あいち食育いきいきプラン 2025」では、第3次計画による取組の実績と評価を踏まえて、令和7年度までに達成すべき数値目標を掲げ、これまでの取組を「継承」とともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs 達成への貢献などを踏まえ、取組を「SHIN化」(新化・進化・深化・伸化)させ、食育の実践力を高めていきます。

「新化」…時代に合わせた変化  
 「進化」…多様な発展  
 「深化」…質の向上  
 「伸化」…横展開のつながり

「S」…Sustainable (持続可能な)  
 「H」…Healthy (健康な)  
 「I」…Interesting (興味深い)  
 「N」…Network (連携)

具体的な目標は、「体」、「心」、「環境」、「支える」の食育の4本柱ごとに掲げています。

表1は、児童生徒に関わる目標の例です。

表1 児童生徒に関わる目標の例

番号	変更事項	項 目	令和2年度	目標(7年度)
①	深化	朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2%	98%以上
②	深化	朝食を毎日食べる習慣がある高校生の割合	86%	91%以上
③	継承	朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9%	80%以上
④	継承	農林漁業体験に取り組む小学校の割合	※77.8%	80%以上
⑤	進化	学校給食において全食品数に占める県産食品数の割合	40.4%	45%以上
⑥	進化	学校給食において年間に使用した県産食品の種類	※55種類	60種類以上

※④については、新型コロナウイルス感染症の影響のため令和元年度を基準とする。

※⑥については、年間調査のため、令和元年度を基準とする。

- ・①②は、朝食欠食率から朝食摂取習慣調査に変更(深化)
- ・③④は、継続調査(継承)
- ・⑤⑥は、「心」の目標から「環境」の目標として調査(進化)

